
今日の方

2025年6月2日 ～ 6月8日

翻訳 岡元 裕子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

6月2日(月)

へりくだることの難しさ

聖書朗読 ヤコブの手紙 4:1~18

「なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるから
です。」 ルカ 14:11

私たちはどうやら誰も彼もが、持っていないもの、受けて当然と思うもの、あるいは既に持っているものでも、もっと欲しがる世界に住んでいるようです。私たちは、より多く、より良く、より大きく、より速くなろうと思います。私たちのうちで最も裕福な者から最も貧しい者まで皆自分たちでは分からないほど多くのものを共通に持っています。

高ぶりと、欲しいものを手に入れるための競争が、戦いや争いの原因になっていると、ヤコブは見て取りました。この世の考え方では、何事でも成し遂げたいと熱望するものを求めるのに、そのために必要だと思う手段を選ばず、積極的に行動するのは当然のことです。私たちがこの世からの報酬を期待するなら、神様のみこころに従おうという私たちの決意は弱まってしまう。

謙遜は私たちが元々持っている性質ではありません。謙遜であるためには、意識的に服従する必要があり、自分の欲望を放棄しなければならないからです。神様に従うことで欲望は変えられ、神様が私たちのために計画してくださっている恵みへのドアが開かれます。

神様のみこころでなければ、私たちの計画も努力もすべて無駄であると、ヤコブは明言しています。私たちにとって真に価値あるものは神様からだけいただけるもので、すべては神様にあるということに気付く時、私たちが欲する称賛や欲望は無意味なものとなります。

聖歌 541 みなささげまつり

祈り 主よ、あなたにすべておゆだねし、あなたが導かれるところにお従いする時、あなたが与えてくださる数え切れないほどの恵みを待ち望むことができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

ニューメキシコ州 グランツ / ランディ・ロバーツ

6月3日（火）

アバ、父よ

聖書朗読 ペテロの手紙 第一 1：3～7

私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。
ヤコブ 1：2～3

ある著者が書いているところによると、ローマ帝国時代、子どもがいじめっ子に襲われた時、敬意を示して“uncle(おじさん)”と言うと、解放されたのだそうです。襲撃に遭った時、“uncle(おじさん)”と言うこと、つまり降参することは、子どもからの離してという懇願のようなものでした。

最近、もう投げ出したくなるほど、忍耐の限界を試されたことはありますか。直近で、反対者に攻撃されたり、あなたの人生に嵐が近づきつつあると気付いたりした時、まず心に浮かんだ思いのことを考えてみてください。嵐の只中で吹き飛ばされそうだと感じた時、心の中ででも、激しく口に出してでも、何と言いましたか。

状況のいかにかわからず、人生の試練に会う時、私たちがまず取るべき防御は、父なる神様を思い出し、「アバ、父」と呼ぶことです。（訳注：ローマ 8：15）神様はいつも私たちとともにおられ、私たちの願いを聞こうとしておられます。

クリスチャンである私たちは、イエス様の十字架と復活によって、すでに自由と勝利を勝ち得ています。父なる神様から目を離さず、つねに備えていきましょう。試練に会った時には、「アバ、父」と呼びましょう。

讃美歌 第二編 43 せかいののぞみなる主よ

祈り 主よ、厳しい試練の中でもあなたが錨となって支えてくださることを感謝します。苦しみの中でもあなたが共にいてくださり、やがてあなたが回復し支え、強め、解決してくださることを覚えさせてください。イエス様のお名前によって。
アーメン。

フロリダ州 ジャクソンビル / プルーデンスC・ウィリアムズ

6月4日（水）

寄留者

聖書朗読 ペテロの手紙 第一 1：13～25

これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。
ヘブル 11：13

聖書がはっきりと確言していることがあるとしたら、それは、私たちのこの人生はもっともっと大きな人生へのほんの入口、玄関に過ぎないということです。ですから、玄関に永住しないように注意しなければなりません。

私たちの国籍は天にあるのですから、天に私たちの根を深くおろすように気をつけなければなりません。“主よ、我らを石造りの家から遠ざけてください”とアフリカの古い祈りにあります。恒久不変に見えるものに騙されないようにしましょう。

寄留者としての私たちの生活は、この世の暮らしとは異なるものになるでしょう。銀行口座は天にあって、そこに希望もあります。エノク、ノア、アブラハム、その他、信仰の勇者たちのように、私たちは地上では旅人として身軽でいて、三つの肝心かなめなものだけを携帯すべきだと、互いに覚え合しましょう。

第一は信仰です。神への信仰がなければ、私たちは死んでしまいます。そして、第二は従順です。神への信仰を従順という入れ物に入れて持ち歩きましょう。従順によって、信仰がいつの間にかなくなってしまうのを防ぐことができます。最後に、愛です。愛をまとうことによって悪しきものから身を守ることができます。

寄留者は自分たちが真の故郷をめざして旅の途上にあるのだということを決して忘れません。

讃美歌 270 信仰こそ旅路を

祈り お父様、私たちを優しく家に導いてください。この世を愛し過ぎないように守ってください。地上の生活ではなく、いつも天の故郷での生活に投資することができますように。イエス様によって。アーメン。

カリフォルニア州 ウェストレイク・ヴィレッジ / ビル・ヘネガー

6月5日(木)

食い尽くされないように

聖書朗読 ペテロの手紙 第一5:1~11

身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。ペテロ I 5:8

ハイラム・スミス*は(*訳注:末日聖徒イエス・キリスト教会の指導者、1800-1844)幼少期をホノルルで過ごしました。ある日、11歳のハイラムは、水深80フィート(約24m)のハナウマ湾を1マイルと1/4(約2km)泳いで渡ろうと決心しました。

その日は波が非常に高く、向こう岸が見えないほどでした。半分くらい泳いだところで、彼は溺れかけました。足をばたつかせ始め、運命の成り行きを待つしかありませんでした。ふと見ると、サメのひれが、大きなひれが水中を過っているのが見えました。突然、力が湧いて、岸に泳ぎ着くことができました。

成人して、彼は自助を奨励する本を著しました。

彼は著書の要点を説明するのに、この幼少期の逸話を挙げ、「溺れるのは仕方ないけれど、サメに食われるのはイヤだと悟った。」と言っています。

使徒ペテロも、クリスチャンが悪魔に食い尽されるのは良くないと言っています。私たちは目を覚ましていなければなりません。サタンは私たちを餌食にするのが何よりも好きなのですから。サタンの脅威を考えると、天の御国という岸にたどり着こうとする決意が強くなります。

食べられるのもイヤですが、溺れるのもイヤです。キリストを見失うと、絶望に陥りません。イエス様を見つめていれば遠くまで行くことができます。

讚美歌 365 わが主イエスよ あいの御手に

祈り 聖なるお父様、あなたが与えてくださる栄冠に目を留め、敵から守られ、安全に天の故郷に帰れますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

アーカンソー州 コンウェイ / クライドH・スリンプ

6月6日(金)

神の武具

聖書朗読 ペテロの手紙 第一5:6~11

終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。

エペソ 6:10~11

《アイアンマン》というスーパーヒーロー映画を観たことがありますか。アイアンマンは犯罪や悪者と闘います。“パワースーツ”を装着すると、行くてを阻もうとする弾丸、爆発装置、いかなる強烈なエネルギーからも護ってくれます。アイアンマンのパワースーツは身体的傷害からの防御が目的です。

クリスチャンである私たちも悪と闘うために武具を利用することができます。私たちの武具は、神様がくださる霊的な武具です。サウル王がダビデに自分の武具、青銅のかぶと、よろい、剣を着けさせようとした時、『ダビデはサウルに言った。「こんなものを着けては、歩くこともできません。慣れていないからです。」ダビデはそれを脱ぎ』ました。(サムエル I 17:38~39)ダビデは、『万軍の主の御名によって』神の武具を身に着けて、ゴリヤテに向かって行きました。

毎朝、日の出前に、私は神様のすべての武具を身に着けます。エペソ人への手紙6:16~17を拝読し、書かれていることを信じ、自分の生活に適用します。聖霊なる神様が私にひとつひとつ武具を装着してくださる様子を想像します。

では、私は1日中、罪を犯さないでいられるでしょうか。いいえ、でも、私はより意識して、身を慎み、目をさまして、悪魔の策略に対して警戒します。

あなたもいかがですか。神様の武具はクリスチャン皆にぴったりフィットします。

讚美歌 第二編 27 立て、つわもの

祈り 父なる神様、あなたを離れては私は何もすることができません。あなたの素晴らしい御力と豊かないつくしみを感謝します。それによって、私は勝利を得ることができます。イエス様のお名前によって。アーメン。

コロラド州 キャノンシティ / ロン・グロース



6月7日（土）

イエス様の足跡に従う

聖書朗読 ヨハネの手紙 第一 2:1~6

私の足は神の歩みにつき従い、神の道を守って、それなかった。 ヨブ 23:11

イスラエル・ツアーの一行と共にエルサレムの古代の街並みを歩きながら、私の想いは、イエス様が同じ通りを歩まれた二千年前に飛びました。ナザレとカペナウムにも行きました。イエス様が長い間、宣べ伝え、病人を癒された所です。オリーブ山ではゲツセマネの園の中を散策しました。イエス様が十字架の死を目前にして一心に祈られた所です。イエス様が地上で歩まれた道を辿る旅は一生忘れられない体験でした。

ペテロ I 2:21に、『キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。』とあります。イエス様は私たちの牧者です。私たちが祈り、忠実であれば、イエス様にお従いしようとする私たちを導いてくださいます。

羊である私たちは、時に道からそれて迷ってしまうこともあります。でも、イエス様を捜し求めれば、尊い主イエス様は私たちを見つけ、御許に連れ戻してくださいます。私たちには、私たちを愛しいつくしんでくださるイエス様がいます。なんとありがたいことでしょう。

あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。

そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。 —箴言3:6

讃美歌 第二編 140 ながき道 ひとりあるきて

祈り 天のお父様、私たちを愛し、御子イエス様をくださいまして、ありがとうございます。あなたのみこころをいつも行えない私たちをお赦しください。いつの日かあなたとともに御国で住むことができるように、あなたにお従いする力をお与えください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ヒューストン / ジェイン・ポー・マッシー



6月8日（日）

目には見えないけれども、近くにいらっしゃるイエス様

聖書朗読 ヨハネの手紙 第一 3:1~3

イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」 ヨハネ 20:29

少年時代、父と私は釣り竿とリールを使って凧揚げしていました。浮かんだと思ったら、空中高く、高く、やがて見えなくなるほど高く上がりました。今でも糸の引きの感触を覚えています。凧や飛行機、気球などがどんな仕組みになっているのかを考えると、びっくり仰天してしまうかもしれません。イエス様の昇天について読むと、当然ながら、困惑し混乱するでしょう。結局のところ、《百聞は一見に如かず》ですよね。違いますか。

イエス様が昇天された時、弟子たちはイエス様が『雲に包まれて、見えなくな』るまで見つめていました。（使徒1:9）イエス様はそれまでに何度も弟子たちの備えのために昇天について語っておられました。イエス様の昇天の後、聖霊が降り、使徒たちは今まで以上の確信をもって、その後の御業に励んだことを、私たちは知っています。イエス様は、お姿は見えなくても、弟子たちとともに大いに働かれました。弟子たちがイエス様をもっとも必要としている時に、彼らをお見捨てになるようなことはなさいませんでした。決して弟子たちを離れませんでした。『見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』と言われました。（マタイ 28:20）

見ずに信じる者は幸いです。『あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見ていないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。これは信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。』（ペテロ I 1:8~9）

讃美歌 347 心にしのぶも たのしき主の

祈り お父様、あなたをまだ見ることはできませんが、あなたが今ここに私たちと共にいてくださることを確信しています。祈りによっていつでもあなたにお会いできます。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 コマーズ / デビッド・ギブソン